

彼方「かなた」

校長通信
H30.5.17
Vol.5

【生徒総会で伝えたかったこと】

事前にしおりの中に生徒総会に向けて伝えたかったことを載せさせてもらいました。また、事前に生徒会長の上村さんから生徒総会について話を聞く機会があり、「どうしてシスター活動を活発にしているのですか？」と聞いてみました。すると「みがき合ったり、支え合ったり、助け合うのは、同じ学年だけでなく、縦の学年でも交流する方が、学校教育目標にも近づくことができるし、もつとよい白山中学校をつくりあげていけると思うので。」という答えでした。とても感激しました。その答えを聞いただけで、生徒総会は質の高い話し合いができると思いました。残念ながら出張のため直接皆さんの話し合いを聞くことはできませんでしたが、教頭先生から「本当に素晴らしい生徒総会でした。前向きな意見にあふれ、自分たちでよくしていこうというのが伝わってきました。」と報告を聞いたときは、とても嬉しくなりました。

そこでもう一度しおりに記した内容を良く読んで、自分たちの手でよりよい白山中学校を作り上げていくという意識を一人一人が持って欲しいと思います。それが生徒総会で出された提案を実現させていくことにつながってくると思います！

『一年後、白山中学校がどんな学校になっていたらいいますか？』

白山中の「三つの伝統」から表題について考えて

みました。

・ 「あいさつ」が校内で活発に交わされ、来校した方々がもう一度来たくなるような学校

・ 朝、帰りの会の時間に歌声が校内に響き渡り、来校した方々が癒されるような学校

・ 黙々と清掃に取り組み、来校した方々も気持ちよく施設を使えるような学校

白山中に来校される保護者の皆さんや地域の方々、ボランティアの皆さん、業者の皆さんは、ほとんどが白山中生のために来校されています。一年後、その方々が、皆さんの姿に元気をもらい、もう一度私たちの学校に足を運びたくなる、そんな白山中学校になっていたら最高だと思います。

生徒会活動が果たす役割は何でしょうか？何のための活動で、誰のための活動なのでしょう？自分たちの手で学校生活をより良いものにするのは、何のためでしょうか？今年度は、「シスター活動」についての提案がなされると聞きました。縦割りでの活動が、果たす役割や成果をどうとらえて取り組んでいけばよいのでしょうか？

昨年度、白山中学校の挨拶は大きく変わりました。生徒会の挨拶運動や生活委員会、学習委員会等の働きかけのお蔭です。「以前は学校に来ても通りかかった生徒から声もかけてもらえなかったけれど、今日はほとんどの生徒が挨拶をしてくれて、とても嬉しかったです。」来校してくださった高校の校長先生とこんな話をしながら廊下を歩いていると「こんにちは！」と声をかけて通り過ぎていく生徒がほとんどでした。「確かに言われるとおどろきだ！」と思いました。

来校して帰る方々が笑顔になれる学校は、最高だと思います。そんな学校をつくりあげるには、みなさん一人一人です。いくら目標を決め、活動を計画しても、実践されなければ何の意味もありません。誰かがやってくれるのを待つのではなく、みなさん一人一人の主体的な行動が、学校を変えていくのです。みなさんの母校となる白山中を創るのは、先生や保護者ではありません。みなさん一人一人なのです。期待しています！

学校を自分たちの手で創りあげていくのは簡単なことではありません。一人一人が意識しなければ「挨拶する」という簡単なことですら変わりません。縦の関係を強くし、みがき合い、支え合い、助け合える学校にするには、毎日の学校生活の中で意識していかねければならないことがあります。それは、自分たちの学級や学年、学校全体での取り組みが、必ず周りを「笑顔」にし、「元気」にしていこうということです。私たちの活動には意味があるのです。それは「笑顔」であり「元気」です。どんなに大変なことがあっても学校に来ると「笑顔」になり、「元気」が出てくる、そんな学校をつくってあげたいと思います。生徒総会で決めたことが、「笑顔満載」の学校づくりにつながってこるとを期待しています。

